

2019,4,14

早春の花々探訪 藤倉山・鍋倉山記録

カタクリ・ユキツバキ・ハウチワカエデ・イカリソウ・トクワカソウ・ミツバツツジなど早春の花々を楽しみました。今回、キクザキイチゲやシュンランなどに出会えませんでした。また、カタクリも少なくなっていました。少し残念ですが、たくさんのお花に出会え大満足の山歩でした。今日も自然に感謝。出会いに感謝の一日でした。

◆トレッキングの様子



眺望を楽しみながら



眺望



愛宕山：四等三角点



ユキツバキの花があちこちに



ブナ原生林に行く



藤倉山山頂①



藤倉山山頂②



藤倉山山頂③643.5m



鍋倉山へ ブナ原生林に行く



鍋倉山山頂 516m



新緑が綺麗



タムシバの香りを確かめる



弘法寺

◆自然観察



ツバキ



シダレザクラ



ヒメエンゴサク



イカリソウ



カタクリ



ユキツバキ



ツボスマレ



オオカメノキ



シハイスミレ



カンアオイ



ハウチワカエデ



ウスギヨウラク



ブナもやし



タムシバ



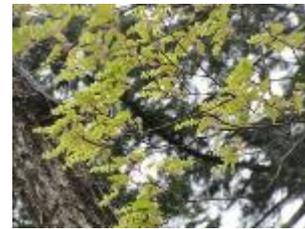
トクワカソウ



クマダナ



ミツバツツジ



◆歴史



新羅神社

御祭神・由緒

一、御祭神 本邊嶋尊

二、御神体 智証大師作と伝える新羅大明神の木像

三、由緒

今庄郡開闢の南土神、「延喜式」にある式内社「信濃良彦神社」であると言われている。

五十五代文徳天皇の御代の仁寿三年（八五三）、智証大師（円珍僧都）は弘法を求めて唐に渡った。のち天安二年（八五八）、高麗國の港から福國の途中激しい嵐に会い、船は逆巻く波にもまれて方向を見失った。その時、大師は、神々に「加護を垂れ給え」と一心に祈った。すると、不思議や船上に立派な姿をした神が現れ、まもなく風波はおさまり、無事日本へ帰国することができた。

清和天皇の御代となり、貞観元年（八五九）、智証大師はあの嵐の中で偉大な力を示して下さった神の姿を念じながら一心に祈っている、その神が姿を現し、「私は大和の國から渡つて新羅國の守護神となつたものである」とのお告げを受け、早速大師はその神の姿を刻まれ、新羅大明神と唱え崇めた。

その後、この御神像は三井寺（大津市・國城寺）に安置されたが、今乱を避けて北陸 当社に移されたと言えられる。

また新羅神社という名から、新羅三郎義光（鎮守府將軍源賴義の第三子）の姿を祀るとも言われている。

新羅神社の社殿は、もと愛宕山の山頂にあつたが、寿永二年（一一八三）木曾義仲が平家軍を迎え撃つため「燈ヶ城」を築いたときに城側に移され、さらに天文年間（一五三二～一五五五）、山麓の現在の地に移された。

新羅神社

「鉄道の町 今庄」

江戸時代、北国街道の宿場町として繁栄した今庄。明治29年に北陸線 敦賀ー福井間の鉄道が開通し、今庄は北陸線最大の難所といわれた今庄ー敦賀間の峠越えに挑む基地として、その役割を担いました。ホームでは、峠越えのために、機関車の付け替え作業が行われたことで全ての列車が5～6分停車したこともあり、北陸線初の立ち売りも誕生し、特に「今庄そば」は人気を博しました。今庄駅は、最盛期総勢250名以上の職員を抱える駅となり、1軒に1人は国鉄職員と言われるほど「鉄道の町」として活気に溢れていました。

昭和37年、北陸トンネルが開通し複線電化され、その役割に幕を閉じましたが、鉄道の町がもたらした歴史や文化は今もお受け継がれています。

福井県南越前町

街道の時代

江戸時代の旅行者は、1日の無程として女性は8里、男性では10里を奥込入でいました。福井から今庄までは約8里（約31.2キロメートル）だったので、福井を早朝に出発した旅人の多くは今庄で宿泊しました。

◎1里は、約3.9キロメートル